

# 絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2022-新春

No.98

●表紙の画および題字は、  
故・平山郁夫画伯のご厚意により  
ご提供いただいているものです。



朝陽法隆寺 奈良 2008年



**【葡萄唐草模様について】**

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

# 厳島神社

(厳島神社大鳥居から本殿を望む)



ユネスコ世界遺産 (文化遺産) シリーズ

撮影・仙波志郎

国宝にしてユネスコ世界文化遺産（一九九六年登録）である安芸の宮島として知られる厳島神社は、古くは「伊都岐島神社」とも記された。全国に五〇〇社ほどある厳島神社の総本社である。

厳島神社は瀬戸内海を池に見立て、背後の弥山を築山とする寝殿造の発想を壮大なスケールで発展させたものと言えようか。海に浮かぶ神社という特異な例は世界にも類を見ない。日本の様式美を世界に知らしめたものである。

安芸の宮島は、天の橋立、松島と並び日本三景にかぞえられるが、この大鳥居も奈良の春日大社、敦賀の気比神宮の大鳥居と共に日本三大鳥居にかぞえられる。

## 年頭のご挨拶



# ウイズ・コロナ、ポスト・コロナの時代に 私たちは、なにを成すべきか？

新年あけましておめでとうございます。コロナとの戦いが早くも三年目に入りました。

わが国では、昨年から年末にかけて感染者数が著しく減り、収束の兆しが見えたかに思われましたが、感染力が極めて高いといわれるオミクロン株の猛威により、世界各国での感染爆発がとうとう日本にも及んできました。まだまだ予断を許さない状況が続きます。

さて、皆さまは、新型コロナウイルスの蔓延によるこの二年の間で、「こんなはずじゃなかった日本！」と思われることが多々あったのではないのでしょうか？ 昭和三十年生まれの私などは、戦後の奇跡と言われた高度成長期に青春時代を過ごし、世界第二位の経済大国として、日本製の車や電気製品はクオリティやコストパフォーマンスで他の追随を許さないものでした。また、国民皆保険制度のもと、誰もが世界最高水準の医療を受けられる。そう信じてきました。

ところが、新型コロナウイルスの世界的なパンデミックという、文字通り百年に一度の非常事態の中、なかなか進まないPCR検査の態勢、ワクチンの製造・認可の遅れ、ワクチン接種予約にまつわる不手際、何度も繰り返される「緊急事態宣言」や「蔓延防止等重点措置」の発出と延長の繰り返しなど。また、日本人特有の清潔さや、規律正しさのお蔭で、欧米諸国とは比較にならないほどの少ない感染者数ながら、世界最高水準と信じて疑わなかった医療機関の逼迫が連日報道されるなど、これまで、平時には機能していた

様々な社会的ファンクションが、想定外の事態には、まったく機能しないという弱点をさらけ出しました。

教育や芸術に携わるものとして、自戒を込めて考えるに、日本は、戦後の経済発展を遂げる中で、教育や芸術への投資を怠って来たことは明らかです。一九六四年、前回の東京オリンピックが開催された年に、事実上、先進国に仲間入りする形で日本がOECD（経済協力開発機構）に加盟し、政府の拠出額も依然、上位を占めるなど、存在感を保っている一方で、GDPあたりの教育への公的支出が、三十八の加盟国中、ほぼ最下位を続けています。また、芸術への公的支出という点でも、個人や企業による寄付文化が定着しているアメリカを除けば、OECD平均をはるかに下回っており、韓国やフランスには大きく水をあけられています。

小学校、中学校、高校での芸術教育については、科学技術立国を目指すという教育改革の名のもとに、理数系と英語教育の充実が図られたあたりで国語や社会の時間数が減り、美術や音楽に至っては過去三十年で三十%以上がカットされ、芸術科目は非正規教員がほとんどを占める。といった感じで、子どもたちが、良質な芸術に触れる機会が明らかに減っています。さらに大学入試が一九九〇年に大学入試センター試験が導入され、四択から一つの正解を導き出すという受験テクニックから、知識詰め込みが主流となり、芸術



理事長 澤和樹 (さわ・かず)

が得意とする、多様な考え方を容認し、自らが感じ、考える能力や感性を育む傾向が明らかに希薄になっていきます。

芸術は人の意識の中に日常的に根付き、社会に豊かさをもたらします。芸術が科学・医学・福祉などとつながり、新たな価値で社会を変えてゆく。感染症によるパンデミックや、気候変動といった地球規模の問題解決にも人々の意識を変え、行動を変えてゆくところで芸術の力は発揮できると信じています。

二〇〇七年に、日本では防衛庁が防衛省となり、予算規模が大きく拡大しました。一方、いまだに文化省はなく、文化庁は文部科学省の一外局にすぎません。第二次世界大戦は東京・大阪や地方都市への空襲、最終的には広島・長崎への原爆投下という悲劇で幕を閉じるようになってしまいました。この戦争で、連合軍による本格的な爆撃を逃れたのが奈良・京都・鎌倉・金沢といった歴史や文化財の残る街でした。芸術や文化の力が、防衛力にも貢献できる例ではないでしょうか？

文化庁を文化省に格上げして、日本の持つ文化力を高めることで、諸外国から尊敬され、大切にされる国になることが急務だと思います。当財団の果たすべき役割もウイズ・コロナ、ポスト・コロナの時代にこそ問われています。

本年も皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。



# インド聖地・危機の中の野生司香雪の仏伝壁画

## 仏陀の生涯を描いた聖なる壁画が危機に瀕している。日本人の手によるこの大作に心から支援の手を……。

### はじめに

自らにとって絵とは、絵を描くという事とはなにか。人物、仏画が得意の東京美術学校卒、再興日本美術院の院友、野生司香雪（一八八五～一九七三）は、画家を志すが画壇に居場所を得ず、絵筆を折りかけていた。しかし昭和七年、四十七歳の時、仏教美術の国インドを日本芸術の母の国と慕う香雪に、聖地サルナートの初転法輪寺（ムラガンタークテイ・ビハラ）で日本を、否世界の画家の代表として仏伝壁画を描くという宿命ともいえる奇縁が訪れた。そして、日本芸術の母の国への恩返しと精進して描いた壁画は、今ではインドの文化財、また「サルナートの仏伝」としてアジアンタ壁画と並び称され、仏陀も神の一人とするヒンドゥー教徒のインド人や世界中の仏教徒、観光客らが見学に訪れる。そして大きく力強く、厳かな日本画の仏伝壁画に出会い感動する。



香雪 サルナート滞在当時

その壁画も制作開始から八十九年、剥落が進行し、寺院ではその修理は作家の国、日本の手でと訪れる日本人に長年呼びかけるが実現しなかった。そこで作家の故郷香川県の有志が

### 壁画とその環境

香雪の壁画は一般に「フレスコ画」といわれているが、漆喰ではなくコンクリートの壁面に直接絵具を膠で溶かし、筆や刷毛で描いた日本画である。

初転法輪寺は北に本尊仏を安置する南北に長い建物で、南に入口がある。仏伝の壁画は入口、南壁の左側から堂内を時計回りで二十二程の画題が時代順に描かれている。香雪は主テーマを「降誕」「降魔成道」「成道」「涅槃」とし、各々を四壁の中央に対峙させて配した。まず入口側の南壁に「降誕」図、対する北はすでに設置されていた石造本尊仏を「成道」に当て、次に西壁に「降魔成道」図、対する東壁に「涅槃」図を配置、その間を他の画題で埋めた。そして最初に描いたのが仏陀と諸悪魔との闘い「降魔成道」で、出家し死が間近のダルマパラーが完成を見ることで、アジヤンタの壁画より大きい、香雪がアジヤンタの壁画を参考に描いた魔女の姿が美しいと大いに喜んだ。

余談だが、知らずに壁画を見るインド人の多くが外国人が描いた壁画と気づかないといわれる所以がこの辺りにある。

壁画の退色は経年劣化で全体的と思われる、亀裂も見られる。制作では当初コンクリート壁からの灰汁がにじみ出し対応に苦慮、直後に鉱物製の絵具中心に変え様子を見た。また堂内は今も蝨燭や線香の匂いが漂うが、壁面の煤けも少ない。それは制作当時と同じ様に建物が夜間と昼休み、雨以外は常に窓も入口も開放されているためと思われる。また高い天井からの照明や、入口や窓からの光も直接に壁画に影響を与えるほどではない環境にある。

### 保存修理の工事

今回の壁画の保存修理は本格的な保存活動以前の応急措置ではあるが、将来その文化財保存修理の技

民間文化ボランティアとして作家の思いを、また日本画の壁画、仏教を介した日印、世界との文化交流の場を少しでも後世に伝えたいと、令和元年度から二カ年計画で全国に募金を呼びかけ、壁画の保存修理に取り組んでいる。

### 制作の依頼と開始

サルナートは仏陀の初説法、仏教発祥の聖地で、日本では鹿野園という。ダメークの塔や仏跡から出土しインドの国章の図柄になったアショカ王の獅子石柱頭などが有名で、一帯は国の史跡公園として保護、開発制限されている。この自然豊かなのでか、古代と近代と現代が混在する小さな町を近い将来、国が世界遺産登録をめざす計画もあるとのこと。

初転法輪寺は、数百年前に途絶えたインドでの仏教の再興を志しインド大菩提会（マハボディ・ソサエティ）を組織したスリランカの居士ダルマパラー（二八六四～一九三三）が、その象徴として昭和六年（一九三二）にダメークの塔の東に隣接して建立、そして堂内に仏伝を描こうと仏教を知らない英国やインドの画家らを差し置き、仏教国日本を頼り、香雪が選ばれ派遣された。渡印した香雪は二十年前に模写したアジヤンタ壁画の様式や、隣接するサルナート考古学博物館の古代石彫仏等も参考にインドの風俗や歴史を加味した近代の仏伝壁画の制作を開始した。もし我が身に何かあってもこの壁画だけは



作業の様子



安全祈願祭を終えて。前列中央左から南澤老師、シーワリー師、メディハンカラ住職



永平寺蔵大下図「降魔成道」(左部分)の前で(香川展にて)。左からS.シン・ヴィヴェカナンダ文化センター所長とスリヴァスタヴァ主席公使



木島隆康東京藝大名誉教授の作業の様子

術が問われる。そこで指導を専門家である香雪の母校、東京藝術大学の木島隆康名誉教授に依頼、また工事に先立って工事担当の（有）彩色設計の技術者と共に事前調査に渡印し、保存状態等を確認した。そして工事を東・西・南壁別に分けて三期、二カ年で実施することとし、インド大菩提会シーワリー総書記、メディハンカラ住職にその計画、また民間が募金を行い取り組みことを伝えて了解を得、さらに受入れ体制準備を依頼した。

そして初年度の令和元年には、顕彰会顧問の南澤道生（現・大本山永平寺貫首）が同行し、シーワリー師、住職、在住日本僧侶らと安全祈願祭を実施、その後二十



野生司香雪画伯顕彰会事務局 元香川県文化会館学芸員 元徳島文理大学非常勤講師 清瀨 茂樹 (みぞぶら・しげき)



初転法輪寺



アナガリーカ・ダルマパラー像

この前で開眼式が行われ、ベナレス大学総長、コルカタの日本総領事らが参加し香雪と壁画を称えた。ダルマパラーの死後、香雪はインドの厳しい暑さと雨に阻まれ長期化した滞在による資金不足を、自ら個展を開いて絵を売り資金を得るなど、苦節足掛け五年がかりですべてを完成させた。

野生司香雪画伯顕彰会事務局 URL : <https://nosu.info/>

日間の第一期（東壁）工事を、無事に終了させた。工事では当初、剥落止め作業で膠を使用する計画だったが、牛皮等から製造される膠に寺院側が信仰上難色を示し、急遽我が国の文化財保存修理で使用されている水性アクリル樹脂溶液に変更した。また寺院側から剥落部分の補彩色の強い希望があり、施工した。他に過去の日本人画家の保存修復状態も確認した。

### コロナ禍での広報活動

コロナ禍で工事も募金活動も中断を余儀なくされているが、香雪やサルナートの壁画を紹介するための展覧会や講演会を、様子を見ながら開催してきた。まず令和二年九月に香川県立ミュージアムで、香雪が献納した大本山永平寺所蔵の初転法輪寺仏伝壁画大下図や香雪作品を紹介する展覧会と写真展、講演会を開催、インド大使館首席公使、香川県知事らにお願いして開展式を行った。また令和三年七月にはインド大使館で展覧会と講演会を開催。インド大使、大使館文化関係者に近代日印文化交流の記念碑である壁画の保存修理活動をしつかり理解していただいた。そして本年令和四年五月には、香雪の終焉の地である長野県で長野市仏教会が大本山永平寺所蔵の大下図を再び展示する香雪展を開催準備中である。この事業がさらに周知され、募金活動に繋がれば幸いである。

### 募金窓口

プロジェクトは財団の「重点助成事業」としており、「寄付は次の口座にお振込みいただけます。」  
※口座名 ①② いずれも  
（公財）文化財保護・芸術研究助成財団  
①郵便振替【00160・5・12319】  
②三菱UFJ銀行  
【〒野中央支店 普07096384】  
※必ず事前に財団宛に連絡ください。

※香雪の生涯等は、『絲綢之路 2019秋「野生司香雪の「心」を守る」』を参照

# 東京藝術大学音楽学部 小泉文夫記念資料室

## 「世界を聴いた男」の研究遺産

人間にとって、音楽とは何か？  
この答えを求めて世界を駆けめぐった  
熱血の研究者の生涯を見る！

### 小泉文夫記念資料室とは？

当室は、世界的な音楽民族学者、故小泉文夫音楽学部元教授（一九二七〜八三）が収集した世界音楽コレクションを、学内外に公開しています。とびきりの笑顔で誰とでも打ち解け、十数カ国語に通じた教授は世界をめぐり、「人間にとって音楽とは何か」と問い続けました。五十六歳で急逝した一九八三年、小泉が広範な調査で入手した楽器や音響資料、書籍、フィールドノート、



小泉文夫記念資料室内の楽器棚（インドの楽器）



自宅で楽器に囲まれる小泉文夫（1980年頃）  
\*当室ではこれらの楽器を展示しています。

ト、写真、民族衣装など研究遺産一式を、音楽研究の進展を願うご遺族が本学に寄贈されました。これらをもとに、一九八五年に当室が開設され、故人の業績に関する情報の発信拠点として今日に至ります。

### 世界音楽の魅力を語る人

小泉は、豊かな現地調査の体験に基づき世界音楽の魅力を語る人でした。『絲綢之路』の読者諸氏にも、教授が長年出演したラジオ番組「世界の民族音楽」で、

あの名調子に耳を傾けた方がおいでかもしれません。小泉は東京生まれ、東京大学文学部で美学を専攻しました。在学中に、故吉川英史講師の講義に接して日本伝統音楽

アジア音楽の中で捉えなおそうとした小泉は、シルクロードの音楽に強く惹かれましたが、この地域の東側半分をしめる中国では、外国人による単独調査は長らく望めない状況でした。

しかし転機は訪れます。一九七〇年代後半から、ユーラシアの音楽文化の調査・招聘・交流事業に着手した一般財団法人民主音楽協会が、小泉教授に協力を仰ぎ、教授は三次にわたるシルクロード音楽調査を団長として率いたのです。第一次（一九七七）はモンゴル、ソ連、パキスタン、ネパール、インドを巡りました。第二次（一九八〇）では中国とパキスタンに赴き、敦煌莫高窟やクチャ遺跡で音楽舞踊壁画群の本格調査を実施しました。また、天山北路と南路の撥弦楽器レウープの奏法を比較し、三味線や琵琶の源流を示唆しました。第三次（一九八二）はトルコ、インド、中国で各地の旋回舞踊に焦点を当てました。

シルクロード音楽の歴史については、岸辺成雄氏や林謙三氏らの優れた文献研究が戦前から存在します。彼ら先達に対して小泉は、楽器や音楽の伝播について立てた仮説を現地調査の知見で補完するという、ユ



第3次民音シルクロード音楽舞踊考察団よりトルコで舞踊音楽の録音をする小泉文夫団長（1982）  
©（一財）民主音楽協会

ニークな方法論を用いたのです。調査後に日本各地で開かれた民音主催のシルクロードコンサート（民音シルクロード音楽の旅）でも教授は企画進行役をつとめ、当時のシルクロード・ブームも相まって熱烈な聴衆を獲得してゆきます。その裏には、政治的に分断されたシルクロードの人々が、音楽の舞台で出会うために奔走する教授の姿がありました。

### 小泉教授の志を継ぐ事業 Web教材「アジアの楽器図鑑」

小泉教授はアジア人同士が音楽を介して親しく交わることを望みました。その思いを継ぐとサイトの制作を始め、オリジナル動画や静止画・録音・テキストなどで日本を含む十三地域十五民族の伝統楽器とその音楽を紹介しています。また、音楽以外に各国の言葉や生活面にも関心を持たせる工夫をこらしてきました。本学音楽学部邦楽科や本学大学美術館の協力を得て、邦楽器や能楽ページの充実を図ったこのサイトは、音楽教育や伝統音楽の演奏者養成の現場で活用されています。



Web教材「アジアの楽器図鑑」より中国ウイグル族のラワーブ



の研究を志し、のちに町田佳聲<sup>かしょう</sup>監修『日本民謡大観』や、平凡社『音楽大事典』の編集にもたずさわりました。一九五八年に東京大学大学院に修士論文「日本伝統音楽の研究に関する方法論と基礎的諸問題」（後の『日本伝統音楽の研究』）を提出し、比較音楽学の観点から日本音楽の音階分析論を示します。

この論文の執筆時から、小泉の関心は日本音楽の比較対象となるアジアへと向かっていました。一九五六年から二年間、インド政府給費留学生として、マドラスとラクナウの音楽学校でインド音楽の実技を学びながら、調査も行いました。これを起点に、ナイル河上流の民俗音楽（一九六四）、カナダとアラスカのエスキモー（一九六七〜六八）、インドネシア（一九七二）ほか、怒涛のフィールドワークが始まります。調査地は日本を含め三十数カ国におよびました。この間に、世界音楽を通文化的に俯瞰する視点が固まったと言えるでしょう。

### 小泉とシルクロード音楽

日本の伝統音楽には、ユーラシア大陸で交流した多民族の遺伝子が刷り込まれています。その日本音楽を

### これからの小泉資料室

当室は資料の公開や「アジアの楽器図鑑」の充実を図りながら、今後は、教授の調査録音を伝統文化の継承や再生に役立てていただくため、現地にお返しする仕事にも力を入れたいと考えています。

小泉は、研究成果を多様なメディアで紹介し、多くの日本人に世界音楽への扉を開きました。また早くからポピュラー音楽研究の重要性を指摘するなど、伝統的なアカデミズムにとられない柔軟性を持つ研究者でもありました。小泉の知的エネルギーは、故人の研究遺産にも流れています。小泉を直接ご存知ない方々にも当室でその一端に触れて、小泉文夫という稀有な人物を、ぜひ再発見していただきたいと思えます。（小泉文夫記念資料室 尾高暁子、松村智郁子、大原崇嘉）



東京藝術大学 音楽学部 小泉文夫記念資料室  
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8  
https://www.geidai.ac.jp/labs/koizumi/index.htm  
【JR】上野駅・鶯谷駅 下車徒歩10分  
【地下鉄】銀座線・日比谷線上野駅 下車徒歩15分  
千代田線・根津駅 下車徒歩約10分

当室の所蔵資料は、学外の方も閲覧・視聴いただけます（無料）。ご希望の方は当室サイトの利用案内からご予約ください。

#### ●所蔵資料のうちけ

楽器：約800点  
図書：日本語 約3,600冊／外国語 約1,500冊  
楽譜：940冊、雑誌：日本語 約430種／外国語 約50種  
録音テープ：2,324点、映像資料：60点  
LPレコード：3,377点（国内盤2,517点／外国盤860点）  
カラー・スライド：約16,000点  
プリント写真・絵はがき：21,000点以上、民族衣装：58点  
その他フィールドノートなど研究資料：3,000ファイル以上

# 遙かなる道——私の来し方

六〇〇年余の歴史を誇る日本を代表する  
古典芸能である「能」。  
幼時よりこの世界で厳しい修行を積んだ  
筆者が「能」の未来に熱い期待を寄せる。

## 能楽の家に生まれて

能楽師の家に生まれた私は、何の抵抗も無く謡・仕舞の稽古を始めていた。おそらく母の胎内にて、父やお弟子達の謡声を聞いていたからであろう。五歳の時に能楽シテ方宝生流十七代宗家 宝生九郎重英師に



親子三代  
左より 父 喜永、筆者、祖父 光雲



イタリア公演 (於 カッラーラ)



能「安宅(あたか)」

入門し、子方(子役)より今日まで六十余年に渡り、舞台を踏ませていただいている。  
子供時代の稽古は、後の十八代宗家 宝生英雄師につけていただき、日々の稽古は父がみてくれていた。どちらの稽古も厳しいものであったが、特に英雄師の稽古はすさまじいもので、出来が悪いと怒鳴られることが当たり前であった。今思い返してみても、稽古はも

とより舞台の出来のことは褒められたことは無かったと思う。稽古の終りに「よし」と声が掛るのだが、意味合いとして「そこまでよい」であり、「それでよい」では無かったと思っている。稽古の形は人や時代によって色々であるが、自分にとっては有難い稽古を受けられたと感謝している。

## 変化と不安

子方が勤められる年代が終り、中学生頃より本格的な稽古に入っていくのであるが、丁度変声期にあたり辛い思いをした。中学・高校時代は思春期で私もその例外では無く、思い悩んでいた。声が思うように出せず、身長も伸び、腰が定まらず、無様な自分に嫌気がさしていた。この道が務まるのか自信が無くなり、暗中模索する時が続いていた。この時期を脱するきっかけとなったのが藝大受験であった。何もせず家業をあきらめるのは悔いが残るし、親に対しても申し訳ない。一念発起して受験を志すと、そこに大きな問題があった。自分には音楽の素養が無いのである。これが高校三年の春であった。父に相談すると「とにかくやるだけやってみろ」ということで、父のお弟子の御子息で



東京藝術大学  
音楽学部教授  
武田孝史  
(たけだ たかし)



仕舞「砧(さぬた)」



藝大公演「和楽の美」第1回公演「熊野(ゆや)の物語」

たり前ではない。昔、楽屋では稽古、藝大ではレッスンと言いつけておられた先生がいらした。その時はあまり気にもとめなかったのだが、学生に教えるようになって、これは大事な事なのだと思付いた。藝の伝承においては「稽古」が大事であるが大学において

## 藝大と共に(二)

藝大に携わるまでは、能楽は男性のなす芸能だと固く思っていた。女性は趣味として嗜んでもらえば結構で、プロとして成り立つのか疑問に感じていた。だが藝大で他ジャンルの方々と接し、その思いが逆に疑問に思えてきた。能楽は男性のなす芸能との思いは変わらないが、女性は無理だと決めつけることは如何なるものであろうとの思いが生じてきた。世阿弥より大成してきた能楽はまさしく男性のもので、女性のなす余地は無かった。だが近年、各役・各流儀においては全てではないが女性もプロの能楽師と認められ、国からも総合指定を受けられる人が増えてきた。この先どのように展開していくかは計り知れないが、女性もスタートに立てたことは良いことであると思っている。

## 藝大と共に(三)

世の移り変わりは計り知れず、混沌とした時代になっっている現在から未来に向けて、変わらず守ってゆくものと、変えなくてははいけないものを見極める素

養が大事とされる。  
藝大において「和楽の美」という公演が毎年一回開催されている。最初は邦楽科全専攻と美術学部による舞台美術の融合から始まり、洋楽もテーマによって参加されるようになってきた。自身にとっては、観世流との異流同演・生田流箏曲合奏での創作舞・白塗りメイクをしての立居振る舞い等、藝大に在籍していなければ体験出来なかった貴重な公演である。これに第一回より参加出来たことは、これもまた大事な財産となっている。

## 一能楽師として

この三月で藝大を退職することになるが、五十年近く藝大に携わって得た財産を、後進にも伝えられるよう努力しなければ思っている。この伝え方も直接の指導はもとよりだが、これからは自身の舞台の充実に重きを置きたいと思っている。直接の稽古はもとより大事なことであるが、稽古をつけてくれる師とはいわず別れを迎える。七十になろうとする者は充実した舞台を勤めることが、後に続く者へのなよりの道しるべになると思うに至った。その為に体調管理を十分に行ない、今まで以上に自身の稽古に精進せねばと思っている。これからの正念場と気を引き締めて進んで行く所存である。

## 筆者略歴

一九五四年東京生まれ。一九六〇年能楽シテ方宝生流宗家 宝生九郎重英師に入門。以来十八代宗家 宝生英雄師・父 武田喜永・高橋章師に師事。流儀職分として従事。(公社)宝生会常務理事(公社)能楽協会会員(一社)日本能楽会理事  
一九七七年東京藝術大学安宅賞を受賞して卒業。八十四年より九十五年まで延十年間非常勤講師。九十五年助教。二〇〇七年教授。

ある武田明倫先生にお願いすることになった。季節は夏であった。先生は「再来年の受験には間に合うようにします」とおっしゃったので、「来年の春、受験したいのですが?」「それは無理です」「そこを何とか?」「いや無理です」「人生の進路をかけてます!」「わかりました。やってみましょう」、こうしてピアノが弾けない者に、楽典を半年で教えるという難業を引き受けてくださった武田明倫先生のおかげで現役合格することが出来た。このことが自信になったのはいうまでもない。人生の大恩人である。

## 藝大と共に(一)

十八歳で藝大音楽学部邦楽科に入学以来、四十九年間宝生流能楽師であると共に、学生・非常勤講師・常勤教員として藝大に携わってきた。学生時代は能楽師としての修行も盛りの時で、大学でのレッスン・授業の合間を縫って、流儀の稽古や催しに駆けつけていた。これが日常であり、あまり他専攻の方々との交遊はなかった。藝大の良さがわかってきたのは常勤になってからで、才能の宝庫に身を置く喜びと苦悩を味わえたのは、何ものにも代え難い財産となっている。我には常識であることが他では非常識、当たり前前の事が当

# 「青の弥勒」からのメッセージ

シルクロードの至宝とも言われるべき  
アフガニスタンの文化財を守ることは、  
そこに住む人々への支援でもある。



東京藝術大学特任教授  
井上隆史  
(いのうえ たかし)

## 「青の弥勒」復元に向けた熱意

昨年八月十五日のアフガニスタン政変は「突然の事態」だった。

私たちは東京藝術大学美術館で九月十日から開催する「みろく」終わりの彼方・弥勒の世界展」の準備に奔走していた最中で、この展覧会では二十年前にタリバン過激派の手によって東西二つの大仏と同時に爆破されて失われたバミヤン石窟の「青の弥勒」と呼ばれた巨大壁画を復元して展示する予定だった。五年前に復元した東大仏の天蓋を飾っていた『天翔ける太陽神』と並べて展示することで、アフガニスタン文化遺産の恒常的な保存に向けてのメッセージを強く発信することを考えていた。そのアフガニスタンがこともあろうに、破壊の当事者とされてきたタリバン政権に戻ってしまったのだ。時計の針が一気に二十年巻き戻されてしまったかのような戸惑いの中で展覧会の準備を進めていくことになった。

「青の弥勒」の復元は、アフガニスタン文化研究の権威であり、東京藝術大学ユーラシア文化交流センターの一員である前田耕作先生の念願だった。また、



甦った「青の弥勒」

の修復保護作業も進んでいた。トランプ元大統領が二〇二〇年二月に発表したアメリカ軍のアフガニスタン撤退宣言から、若干の危惧を抱いていたが、二十年続いた民主政権の完全崩壊・タリバン政権への先祖返りという事態は想像だにしていなかった。

## 文化財の保護と予断を許さないタリバン政権

コロナ緊急事態宣言の中、展覧会は何とか開幕に漕

うが、アフガニスタンの今後は予断を許さない。一部の公務員への給与支払いは始まったとの報道もあるが、博物館の職員たちはここ四か月無給で収蔵品を守っている。国土の八割を占める山岳地帯では、寒さをしのぐ術もない多くの貧しい人々が厳しい冬を迎えている。国連世界食糧計画(WFP)は国民の半分以上にあたる二二八〇万人がこの十一月以降には飢餓状態になるとの警告を發した。苦しむのはいつの時代にも無辜の民である。国際社会の一刻も早い支援が求められている。

## 平山郁夫先生の「心」を世界にむけて

二〇〇二年にカブールで開かれたユネスコの会議に同席したときの、平山郁夫先生の切々とした訴えが忘れられない。

「多大の費用をかけたバミヤン大仏の復元を声高に叫ぶ前に、多くの貧困にあえぐアフガニスタンの人々に救済の手を差し伸べることから始めるべきではないでしょうか…」

大仏破壊後のバミヤン石窟の保存修復事業はまだその途上にある。シルクロードの巨大仏教遺跡の発見



バミヤン石窟

として注目されたメスアイナク遺跡から出土した仏頭や壁画の一部は、東京藝術大学での修復が終わって、この春カブールに送り返したばかりである。そのメスアイナクでは、中国企業



展覧会場



による銅鉱山開発がタリバン政権の許可を得て再開されるというニュースが伝わってきた。鉱山の上にある仏教遺跡はまさに風前の灯火である。私たちは以下のような緊急メッセージを展覧会場に掲げるとともにSNSを通じて世界に向けて発信することにした。

ぎつけることができた。そして青の弥勒はかつてのラピスラズリの輝きをそのままに原寸大で甦った。平山郁夫シルクロード美術館の所蔵品や敦煌莫高窟最古の窟である二七五窟の交脚弥勒像などで辿る「弥勒の道」は、壮大なシルクロードの交流の姿を紹介するとともに、かけがえのない人類遺産の宝庫であるアフガニスタンに改めて光をあてる物語りを織りなせたと確信している。

アフガニスタンの事態の急変を受けて、私たちは予定していたオンライン国際シンポジウムを急遽「危機に瀕するアフガニスタン文化遺産」と題して、混乱の続くアフガニスタンの最新報告と緊急メッセージを加えることにした。アフガニスタン国立博物館の館長や、カブールから自衛隊機で緊急脱出したジャーナリストト安井浩美さんのパキスタンからの生出演などで、できる限り直近のアフガニスタン情勢を伝えることを主眼とした。四時間以上に及ぶシンポジウムは国内外で九六一人／箇所を繋ぎ、中国では敦煌研究院や中国人民大学、山西省文物局などのサテライト会場からも参加があり、予想を超えた盛況となった。

タリバンは文化遺産の保護を約束し、博物館やバミヤン石窟はタリバン兵士たちに警備されているとい

私たちはアフガニスタンにおける持続的な平和を心から願っています。文明の十字路といわれるアフガニスタンは私たち日本の古代文化につながるシルクロード遺産の宝庫です。かけがえのない人類遺産を何としても守らなければなりません。(中略)

また故平山郁夫先生が中心となって救済した「アフガニスタン流出文化財」は二〇一六年にアフガニスタンに帰還し、国立博物館に展示されてアフガニスタンの輝きを人々に教え、多くの若者が自らの国の歴史と文化に対する誇りと愛着を持つことができたこと喜びの聲が届きました。アフガニスタンの文化遺産は「比類なき人類共通の文化遺産」として保持されるべきもので、再び戦火に晒してはならないものです。

私たちは訴えます。アフガニスタンではこれ以上の流血は絶対に避け、アフガニスタンを世界へ繋ぐ文化遺産を再び戦火に晒させないために世界はいま大きな声を揚げなければなりません。

人類共通の叡智の集積である文化遺産は新たな平和と持続する平和への歩みにならずや光を投げかけてくるものと願いながら…

弥勒は釈迦の入滅後、五六億七〇〇〇万年の後に地上に降り立ち、釈迦の説法に漏れた無数の衆生を救済してくれろという。弥勒の下生までは待たずともせめてアフガニスタンの人々に平穏な日々が戻ることを願うばかりである。

## 筆者紹介

NHKプロデューサーとして文明・歴史・美術に関連する特集番組の制作に携わってきた。代表作「大黄河」「大モンゴル」「中国12億人の改革開放」「一族の肖像」「四大文明」「新シルクロード」。現在はシルクロードの文化遺産保護に取り組む。

# 「笙」

## 響銅の簧から生まれる響き

「箏」<sup>ひちりき</sup>とならば雅楽を支える重要な楽器である「笙」。  
様々な工夫が凝らされた中からあの優雅な響きが……。

### 笙——はじめに

「世界でもっとも古くから伝わるオーケストラ」と称される雅楽。千年以上も前からこんな多様な楽器による合奏があったのか、と驚かされます。どれも個性的な楽器ですが、今回は、とりわけ姿も音色も魅力的な「笙」をご紹介します。

### 鳳凰が羽を休める姿

笙はその途切れることなく続く音が、天からまっ



笙

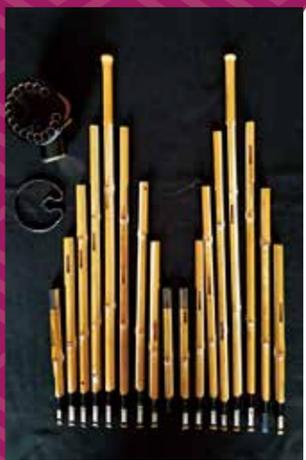
のです。また、もうこれ以上吸いたくないのに、吸い続けると音が途切れてしまう、という感覚は、ちょっと他の楽器にはない苦労でしょう。

吸っても音が出る楽器、といえはハーモニカを思い出しますが、ハーモニカの場合、ドは吹き、レは吸うなど、吹いて出る音と吸って出る音が違います。ハーモニカの吹き口を覗くと、金属のリードが音によつて出っ張ったり引っ込んだりしているのが見えますが、こうしたリードでは、一方からの空気の流れに対してしか振動しないからです。

では笙のリード（簧）はどうなっているのか、というと、薄い長方形の響銅の板にコの字のような切れ込みがあって、内側の部分がこちらにもあちらにも動きます。両方向からの空気の流れに反応して振動するので、吹いても吸っても音が出るのです。

これは実はすごいことです。笙のように金属板が振動して音を出す楽器には、ハーモニカだけでなく、アコーディオン、鍵盤ハーモニカ、教会のパイプオルガンなどいろいろありますが、どれもリードの振動は一方です。アコーディオンは蛇腹を開いても閉じて音が出ますが、開いたときに音を出すリードと、閉じるときのリードは別で、一音毎に二つのリードがついているのだそうです。

リードがうまく振動するように、響銅の上には、孔雀石（マラカイト）の細かい粉を水で溶いたものを薄く塗り、蜜蝋と松脂などを混ぜた錘が載せられています。錘の量を少し増減することで音程の調



笙の管を外し、内側を上にして並べたところ。下部の四角い部分がリード（簧）。上部の四角い穴までの長さが共鳴管となります。



右から笙、箏、龍笛の演奏（雅楽三昧 中村さんち）

で竹が生えているような姿です。実はこれは鳳凰が羽を休めている形を模しているともいわれ、「鳳凰」と呼ぶこともあり。雅楽の横笛が「龍笛」と呼ばれるのと対ですね。架空の霊力を持つ動物の名を冠するところに、人々のこの楽器に対する神聖な思いが見える気がします。

### 和音を奏でる

姿が美しいだけでなく、笙は他の管楽器にはでき

すぐ差し込む光にもたとえられる、美しい、繊細な音を持つ楽器です。頭と呼ばれる木の器に、十七本の竹が丸く差し込まれていて、そのうち十五本の竹から音が出ます。

竹冠に生けると書いて「笙」という漢字になります。まる



笙のリード（簧）。口の形に切り込みを入れた響銅の上に、孔雀石の青い粉を塗り、上部に黒い錘を乗せてあります。



ハーモニカのリード。金属板の上部、または下部にリードが取り付けられているので、交互に出っ張ったり引っ込んだりしています。



葫蘆笙（フルーシェン）少数民族の用いる笙。ひょうたん竹管5本が差し込まれている。（民音音楽博物館所蔵）

整をするのです。振動を与えると石や錘が飛んでしまつて音が狂いますから、笙奏者はいつとも大切そうに楽器を抱えています。

また、笙奏者は演奏する前後に、火鉢や電熱器の上で楽器をくるくる回していますが、これはリードがうまく振動するように温めています。呼吸の中に含まれる水分が金属に結露してしまうと、うまく振動せず、音が出なくなることもあるので、常に自分の体温より少し高めの温度に楽器を温めねばなりません。笙は繊細なだけに手がかかる楽器なのです。

### 世界の笙

笙は千数百年前に中国大陸から日本に渡ってきたのですが、今も中国、タイ、ラオス、ベトナムなどで笙の仲間が演奏されています。ひょうたんに葦を差した少数民族の笙は、踊りながらリズムカルに演奏さ

ないことができます。

まず、和音が吹けること。竹の下の方に小さな穴があけられていて、穴を指で押さえれば一つの竹から音が一つ出ます。通常、左手は小指を除く四本、右手は親指と人差し指の二本、計六つの音を同時に出し、和音を奏でています。指で押さえる竹を変えて和音の音を変えざるを得ないですが、実は左手の中指と人差し指はずっと離さないで、高いラとシの音が常に鳴り続けています。この二音がいわゆるドローンとなって、独特の雰囲気醸し出しているようです。

### 呼吸が音になる

もう一つ、笙だからこそできる奏法は、吹いても吸っても同じ音が出ること。そのおかげで一〇分も二〇分も、音を途切れさせずにずっと吹き続けることができるのです。

竹を通して呼吸をして生きるから「笙」というのかもしれない。深呼吸をすることが音になるなんて素敵ですね。ただし、息を吐ききった後、少しづつ静かにゆっくり吸うというのは、案外難しいものです。

日本の笙は、正倉院の笙からほとんど姿を変えていませんが、今では古典雅楽で用いられるだけでなく、現代音楽のシーンでも大活躍するようになってきました。たった十五の音しか出せないのに、こんなにいろんな世界が表現できるのかと驚くばかりです。

さて、私は雅楽の中で主に箏を演奏していますので、いつも笙の息遣いを隣に感じながら演奏しています。笙は旋律の背景となつて静かに吹いている楽器と思われることもありますが、とんでもありません。旋律楽器が息を取る四拍目に、笙が息を強く張つて旋律に先んじて次の和音へ移るのですが、そのタイミングや息遣いに影響を受けて、箏の吹き方が定まっています。合奏の進み方や雰囲気方向づける裏のボスは笙奏者ではないか、と私は思っています。

様々な魅力をもつ笙。機会があればその響きに、是非一度耳を傾けてみてください。

### 筆者略歴

東京藝術大学大学院音楽学専攻修了。大学時代に雅楽と出会い、雅楽全般を芝祐靖氏、箏と左舞を大窪永夫氏、笙と古代歌謡を豊英秋氏らに師事。雅楽古典、現代作品を、国内各地、北米、ヨーロッパの音楽祭などで演奏。洋楽、邦楽、聲明、舞踊、演劇、書など様々なジャンルの芸術家とも共演している。また、リサイタル「葦の風」などで、箏ソロ曲・アンサンブル曲を多数委嘱初演し、その成果をCD「ひちりき萬華鏡」「胡笳の声」に収録。雅楽演奏団体「冷泉舎」メンバー。「雅楽三昧中村さんち」「雅楽トリオ千歳」などのユニットでも活躍している。二〇一〇年松尾芸能賞新人賞を受賞。



国立音楽大学非常勤講師  
沖縄県立芸術大学非常勤講師  
中村 仁美  
(なかむら・ひとみ)

令和三年度助成事業の採択状況について  
 令和三年度助成事業の申請、採択状況について次のとおり報告します。

■文化財保存修復助成事業  
 三十二都府県の教育委員会等から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

	申請数	採択数	決定金額
美術工芸	二十二	十一	二百三十五万円
建造物	三十八	二十	六百十五万円
有形民俗	一	一	二十五万円
その他	一	一	二十五万円
計	六十二	三十三	九百万円



■芸術研究等助成事業  
 研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
十七	八	二百七十五万円

詳細は当財団事務局までお問い合わせ下さい。  
 (電話)：〇三・五六八五・二三二一  
**(1)銀行振込又は郵便振替**  
 銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付けております。  
**(銀行振込)**  
 ○三井住友銀行 上野支店  
 普通 6615500  
 ○みずほ銀行 上野支店  
 普通 4478576  
 ○三菱UFJ銀行 上野中央支店  
 普通 0796384  
**(郵便振替)**  
 00160・5・12319  
 ※口座名義は、銀行、郵便局、いずれも(公財)文化財保護・芸術研究助成財団  
 ※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、財団事務局に事前にご連絡をいただくと幸いです。  
**(2)インターネットによるご寄付**  
 次の手順によりインターネットから、クレジットカード又はTポイントによるご寄付(募金)を受け付けています。  
 ←「YAHOO! JAPAN ネット募金」  
 ←「文化・スポーツ」  
 ←「文化財保存修復支援募金」  
 ←「クレジットカード」又は「Tポイント」を選択  
 ←募金

**(3)特定寄付信託**  
 信託した金銭を運用収益とともに寄付するものです。当財団は、みずほ信託銀行と特定寄付信託に関して契約しています。詳細は左記にお問い合わせ下さい。  
 みずほ信託銀行  
 (電話)：〇三・三二七四・九二〇三  
**(4)遺贈**  
 「遺贈」によるご寄付・相続財産のご寄付

東京藝術大学 露木雅弥「和楽の美く古の花」



東京藝術大学 井上隆史「みろく〜終わりの彼方 弥勒の世界〜」



■国際協力事業  
 研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
二	一	四十万円

■重点助成事業  
**(1)熊本地震被災文化財救援・復旧支援事業**  
 教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。  

美術工芸	採択数	決定金額
美術工芸	一	四十万円
建造物	一	三十万円

**(2)昭憲皇太后大礼服研究修復復元支援事業**  
 大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服は、貴重な歴史資料であり近代日本の象徴的遺産として文化財的価値が高い。経

を承っております。

「遺贈」とは、遺言により、ご自分の財産を特定の人や団体に分け与えることをいいます。受取人として、法定相続ではなく遺言書により、一部又はすべての財産の受取人として、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団をご指定いただくことができます。  
 財団に寄付をされた場合、相続税の控除を受けることができます。  
 遺贈をご検討いただく際は、お電話かメールにて当財団までご相談下さい。

**(5)商品券・図書券等による寄付**  
 ご家庭のタンスや事務室の机の中等で眠っている、未使用の商品券、図書券、切手、収入印紙、ビール券、お米券、旅行券、Q.U.Oカード、テレホンカード、書き損じ葉書等もご寄付として受け入れております。  
 お送りいただく場合は、当財団事務局宛てに封書にてご郵送下さい。  
 \* \* \* \* \*

●税法上の優遇措置  
 当財団は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、賛助会費・寄付金(募金)には税法上の優遇措置が適用され、所得税、法人税等の控除が受けられます。詳しくは当財団ホームページでご確認いただくか事務局までお問い合わせください。  
 \* \* \* \* \*

☆財団案内及び賛助会員入会申込書のご請求、その他ご質問等お問い合わせは財団事務局までご連絡をお願いいたします。

顕彰のお知らせ

当財団副理事長の青柳正規氏が、令和三年度の文化功労者として顕彰されましたのでお知らせします。

年劣化著しい大礼服の修復、欠失している部分(スカート)の復元のため、令和元年度から令和五年度まで募金を行い昭憲皇太后大礼服の研究・修復・復元事業を実施しています。

令和三年度は五年計画の三年目です。  
**(3)サールナート(インド) 野生司香雪 仏伝壁画保全支援事業**  
 日本画家・野生司香雪は、約八十年前にインドの聖地サールナートの初転法輪寺で仏伝壁画を完成させました。今では我が国在外の稀有な近代芸術の文化財です。  
 その仏伝壁画は、経年劣化が進み剥落が激しく保全措置が必要となり、令和元年度から令和四年度まで募金を行い、仏伝壁画の保全事業を実施しています。  
 令和三年度は四年計画の三年目です。  
**(4)尼門跡寺院文化財保存修復助成事業**  
 本事業は、平成十二年度から企業等のご支援を受けて毎年一件の助成を実施しているものです。  
 令和二年度から、「真如寺蔵・無外如大禅尼像他研究修復出版プロジェクト」を立ち上げ、令和二年度から令和五年度まで募金を行い実施しています。  
 令和三年度は四年計画の二年目です。  
**(5)その他(東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業)**  
 教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

美術工芸	採択数	決定金額
美術工芸	一	七百万円
建造物	一	百五十万円

◎令和三年十月一日から十二月三十一日まで

お知らせ

**(1)令和四年度助成金の申請に関するお知らせ**  
 令和四年度助成事業にかかる助成金申請について、左記のとおり受け付けを行っております。詳細は、当財団ホームページ(助成金のご案内欄)でご確認下さい。  
**例年実施の文化財保護・芸術研究に係る助成事業**  
 (申請期間)  
 令和四年一月十日〜二月末日(必着)  
**(2)理事長CDプレゼント**  
 澤和樹理事長が就任したことを記念して、新規に賛助会員に入会された方、及び三万円以上ご寄付を頂いた方に澤和樹のCD「ヴァイオリンでうたう 日本のこころ」をプレゼントします。

この機会に賛助会員ご入会、ご寄付をおまちしております。  
 なお、既に賛助会員になられている方には今年度会費納入時にお届けします。



今号の表紙

平山郁夫画伯は、日本文化の源流たる中国の文化に敬意を抱いておられました。本年は日中国交正常化五〇周年という節目の年にあたります。二〇〇八年、北京オリンピックへの協力と日中平和友好条約締結三〇周年を記念し、祝意を込めて北京の中国美術館で「平山郁夫芸術展」が開催され

敬称略 順不同

☆寄付金  
 ○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付  
 ヤフーネット募金(109名様)

○熊本地震被災文化財救援・復旧支援事業に対する寄付

○サールナート(インド) 野生司香雪の仏伝壁画保全支援事業に対する寄付

○尼門跡寺院文化財保存修復助成事業に対する寄付

○東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業に対する寄付

お願い

◎賛助会員ご入会並びにご寄付のお願い  
**〈賛助会員〉**  
 当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。  
 法人正会員 年額(1口) 50万円  
 個人正会員 年額(1口) 1万円  
 維持会員 年額(1口) 10万円  
**〈ご寄付〉**  
 賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けております。ご寄付の方法は様々な方法がありますので、左記のとおりご紹介いたします。

ました。その時、画伯から中国政府へ贈呈されたのが本作品です。



朝陽法隆寺 奈良 2008年  
 「朝陽法隆寺 奈良」は、一二〇号の大作で、釣魚台国賓館の中でも元首クラスの要人用の宿泊施設といわれる十二号楼に飾られているとのこと(当時)です(当時)。  
 この時の旅が、平山画伯の最後の中国への旅となりました。

編集後記

新型コロナウイルス感染症は、現代社会の仕組みをすっかり変えてしまった感じがします。新春早々気が引けますが、富士山の噴火やら東南海大地震襲来などが喧伝されております。コロナの終結はまだ見通しが立っておりません。  
 あれやこれや本年も安穏とした年は期待薄かもしれません。そんな中、事務局職員一同最大限の努力をもって職務を遂行してまいり所存です。皆さま方におかれましても健康に御留意され、念願成就をめざして下さい。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)  
 二〇二二年 新春号 通巻第九十八号

★令和四年一月二十五日発行  
 ★編集発行/公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 事務局◎  
 〒110-0007 東京都台東区上野公園十二一五〇  
 電話(〇三)五六八五一一三三一一  
 FAX(〇三)五六八五一一三三二五  
 URL: http://www.bunkazai.or.jp/  
 E-mail: jimukyoku@bunkazai.or.jp  
 ★印刷 篠田印刷株式会社